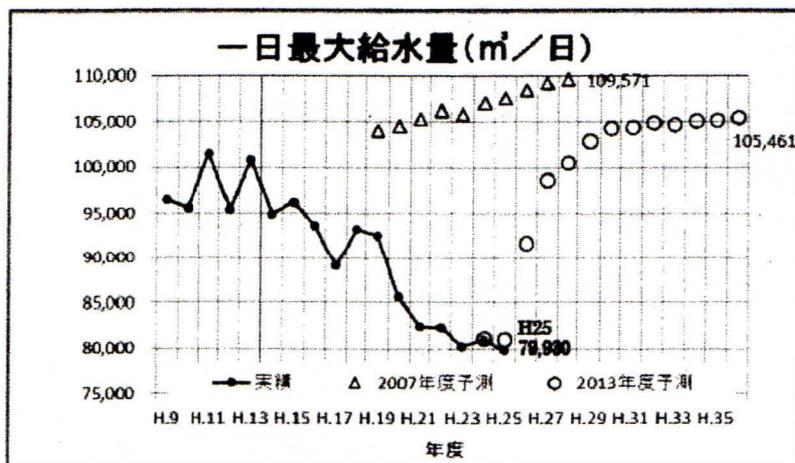


# ここが変です「佐世保の利水と川棚の治水」

## 利水のために石木ダムは必要ない

1 佐世保市水道局との説明会を通じて明らかとなったこと

(1) 佐世保市水道局の需要予測がでたらめであること



佐世保市は、石木ダムの事業認定申請の重要な根拠として、需要予測をしています。しかし、説明会を通じて、その需要予測が生活用水面、業務営業用水の両面において、恣意的なデータ作成であることが明らかになりました。その一例をご紹介します。

左の表は、佐世保市の一日最大給水量に関して、佐世保市が算出した数値をグ

ラフ化したものです。これを見ると2014年からの需要が跳ね上がっていることがわかりますが、これは佐世保市が石木ダム建設ありきの結論を導くために、佐世保市の水需要を大げさに見積もったものにほかなりません。

(2) 平成6～7年の渇水は石木ダムの必要性の根拠とはならないこと

佐世保市は、説明会の中で、しきりに平成6～7年の渇水の苦しみを強調してきました。

しかし、その一方で、佐世保市は、事業認定申請において平成6～7年の渇水を石木ダム必要性の根拠として国に説明していません。このように、佐世保市は、市民への説明においては平成6～7年の渇水を持ち出しながらも、国にはその説明をしないという矛盾した態度をとっています。平成6年～7年の渇水を強調し、石木ダム建設の根拠とするならば、一貫してその説明をすべきです。

さらに、佐世保市は、現時点で平成6～7年同様の降水量となった場合に渇水が起きるかどうかの検証を行っていませんでした。その理由は、「一部のデータを保存していない」というものです。石木ダムが渇水対策として必要であることを強調するのであれば、現時点において渇水が起きるのかどうか検証しておくべきことは当然です。佐世保市はそのような当然の検証をせずに、市民県民の多額の税金を石木ダム建設に投入しようとしているのです。

## 2 今後の展開

これまでの佐世保市との説明会によって、利水面における石木ダム建設の必要性がないことは、明らかになったといえます。今後は、長崎県や佐世保市に対して、あらゆる機会を通じて納得できる説明を求めていきたいと考えています。

また、私たちは、長崎県や佐世保市が、根拠なく平成6～7年の渇水を持ち出し、虚偽のデータ積み重ねによって石木ダム建設の必要性を説いていること、事業を進めていることを知る必要があります。このことを一人でも多くの長崎県民や佐世保市民の方々と共有していきたいと考えています。

# 治水のためにも石木ダムは必要ない

## 1 これまでの長崎県説明会を通じて明らかとなったこと

### ①石木ダムがなくても過去発生した水害を防止できること

長崎県は、川棚川流域で過去に水害が発生してきたことから、これまでの治水対策では不十分であり、石木ダムが必要であるとしています。

しかし、長崎県の説明会を通じて、これまでに川棚川流域で発生したことがある過去の水害は、石木ダムを建設しなくても予定された川棚川の改修工事（河道整備）によって全て防止できることが確認できました。すなわち、長崎県が予定している河道整備は、基準点（山道橋地点）にて1130m<sup>3</sup>/秒の流量を安全に流すことができる計画であり、現時点でそのほとんどが完成しています。

そして、過去に発生した水害において基準点で1130m<sup>3</sup>/秒の流量を超えたことは一度もなく、仮に今後過去の水害の原因となった規模の降雨があつたとしても、安全に海まで流すことができ、水害は発生しないことが明らかとなったのです。

長崎県はこれらの事実を分かっていたにもかかわらず、事実を隠し続け、過去に水害が生じたことを石木ダムが必要であるとする理由として挙げることによって、長崎県民を欺き続けてきたのです。

### ② 長崎県の想定する治水計画に現実性・連続性がないこと

また、長崎県の言う100年に1度の割合で発生する降雨量の雨が降つたとしても、様々な降雨パターンが考えられます。そして、長崎県が想定した9種類の降雨パターンのうち、極めて特殊な降り方（引き伸ばし計算を重ね短時間で集中的に降つた場合）をした1パターンに限って、長崎県が想定する流量になることが明らかとされ、他の8パターンではおよそ水害が起きる流量ではないことが確認されました。さらに、長崎県の治水計画に川棚川の上流と下流で連続性がないことも明らかとなっています。

## 2 今後の説明会で明らかにすべき点

私たちは一般論として治水対策をする必要性を否定していません。一般論として川棚川の治水対策の必要性があるとしても、石木ダムより安全で、効果的で、且つ、長崎県民の経済的負担が少ない替わりの手段（代替案）があると述べているのです。

この点、これまで長崎県が検討してきた代替案は、いずれも先の河道整備がなされる前の状態で作成された古いもので、実際よりも大幅に費用のかかる内容となっており、また、その代替案の検討も不十分なものでした。

現在、長崎県が予定している河道整備はほぼ完成しておりますので、私たちはこれを前提に、石木ダムより、安全、有効、且つ、経済的である治水代替案を長崎県に突きつけていきます。

石木ダム問題は地権者の問題ではなく、佐世保市民、長崎県民全体の問題でもあります。私たちは、より良い長崎県政を実現するために、皆様に石木ダム問題が血税を負担してまで真に必要な不可欠な事業であるのかを改めて考えていただくことを強く願っています。